

素入野々紋切形
 初編下式亭三馬戲作

13
 2853
 2



正躬鬼の神職あるごとく。人情不九損一徳を報へ渡せふ一擲

ひやうと考へかせぎて銭を設る。才子六吉神の別當あるべし。

あつた狂言茶番を好く。寢食を忘る。遊人秋狸が顔と會

る友よを春瓶とよめ五七人。孝思梅端練うくわゆるりお下を兵

月次の會も出で。代作をしてめらひ。うを墨板をり自ら刻し。彼後さじや

あつた色紙と号け。ませむりの後後。あつたうけをまつ。物まるゆふ。まらる

わ。まを懐中し。初出の上。まらるりお物物の交易。まらるり。まらるり。まらるり

一名だゆといふ方を。薄儀白鳥と表せ。て収納場。惠技し。酒飯を吃するの

あつた者札を所せ。て。別後。あつた。作の皮。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた

其智をうらぐらぐらと聴ゆ内ふらぐらぐら上達ぐらぢぢぢ
 少く大層と云移入空。少く大層といわれどもは願ぐらぢぢぢ
 めのかまへん大丹精ぐら。そのおかげでやうやう大層ぐら。今に
 おいて地主もあら移入僅五両で三回に少間者のかうぢぢぢ
 秋ヨウく寺園あつぐら。からやう大層さふといらむる
 る大層ぐら。芝居をん移入故の高兼屋が供へ候ぐら。ま
 者の仕移入役ぐら。操程言の庄屋と身舞伎の大層と
 引張ふ役ぐら。秋トキニ満練さん久々く名をとり移入子。俗

用ふおひもてさうさう候ぐら。ゆぢけり形のよとぐら。せとぐら。と。芦田町
 とつふおを通りや〜と。おや〜た女が子抱てきて居や〜と。
 傍の〜が〜も〜君〜といふら家でも〜や〜と。秋ハテ。五た
 世帯が焼世の娘子をの鶴屋に宿せりもさうおのめ。ち
 と同字病もあるけれど。俗物のあつやまめい。おぢぢ。秋
 大秀逸ぐら。店。ソリや肉湯。ある。ありかて。く。酒のむぢぢ
 くらぢ。この心から此世の人で候。横たあつら。無難で
 もあんでも移入せ。ゆ〜〜せく。小説家る〜。同話休頓

岡白駒が澤しと通り。むごたあふさそおきス。サテト。万福が内の狂
 言極つらやア極つ。一五大方と納つて。を増減してつあ
 ぎふとて一が書や一。室に一夜漬の淨瑠璃を吐きはけり
 だ。あつた物が道具にあつて。けり奇つての迷ふがあま
 や。一。先刻承知ごらう。百成を千を即ぐ雨のをどく候と。
 個市乃長たろが迷ふにあらう。勿論あの晩おれ方へ
 きてつきて戻つて。何も子細い事さ。あつておま長たろ
 のやまをわーあつて。お長もたあつて。お津留嬢を付つてのり。

「おのうアとらう。いんそ地獄でおなく長を即にしちやア
 どうだん。春。それぢやアあまの向ど。あつて障りがあつてよく
 ねぐらにお長羊をろさ。一侍お羊長たろといふ名へ作者の働
 いしんご子。長と羊で對をぬこ内が妙。おのらあつて大
 小ちあつとまら子。おと小で對をぬ。田文殊で少殊のつら
 ぬる利ど。ア。コット。話分両頭。却説といふサテ
 さ。岡白駒が澤しと通り。コウ一く岡白駒ごめ。さう通つ
 ぬものも。シカシ。迎春の傍をへあつて小説の文字を

切拵きりぎてあやを○一五二十いちごいちごでいぢぶ志し下したう。着き一着いちしやくををちちああととるる。
 只見ただみとといいふふはは。其その外ほか三さん七しち二に十じゅう一いちのの二に進しんがが一いち十じゅうののとと俗ぞく者しやく
 の文ふみ字じををととめめるるがが。ああれれハハ俗ぞく語ご本ほんとといいふふののぢぢやや。秋あきツツクク。
 それそれははいいららぬぬててハハ戲げ作さく者しやく同どうじじ。ああままりり穿うがつつてて泥どろをを出だすす
 不ふ風ふう流りゅうどどののトトキキニニ。ああ長なが半はんちちんんハハ當あて拵ぎやうでで所ところ作さくががああるる。ソソレレデデ役やく
 割わりハハ多おほ量りやう左ひだり門かどさんさんがが半はんちちんんでで店たな助すけさんさんがが長なが保たもとと番ばん助すけハハ
 定さだままれれ通とほるる。折をりのの本ほん派はああららううてて浪なみ板いた派は二に三さん枚まい桂けい川がわ乃なり
 いいききくくをを橋はし川がわとといいふふ制せい札さつ家け不ふ店たな助すけさんさんがが長なが保たもとと番ばん助すけでで向むか
 髪かみをを束たばねねううままるる。ままんんてて拵ぎやういいままりり。ソソレレデデ寒かむ衣ぎがが丸まる顔かほのの前まへ髪かみハハ保たも
 ららをを。半はんちちんんのの拵ぎやうままるる。くく。例れいのの紋もん切きり形かたちででああ長なががが半はんちちんんをを負おご
 てて居ゐるる。店たなツツリリクク。ちちととおお待まちそのううアアいいせせ。結むすががチチトト難なん拵ぎやうががああるる。
 ハハ。ええんんせせああいいハハ裁ざいああららうう。四よ尺せき二に寸すんのの着き物ものをを穿あけきるる。大おほ男おとこがが其その
 上うへにに酒さけおおととりりでで。おおきき典てん六ろくささええららぬぬかか。ヨヨリリくくががららてておおるる。ああままりり
 體たいハハ二に尺せき八はち寸すんのの足あし物ものをを穿あけきるる。由ゆ存ぞんのの小こささ大おほ層そうでで。ええんんせせああ
 ぶぶららててんんかかああままりりおおししりりおおくくるる。そそりりややアアめめうう西さい作さく所ところのの上うへううらら
 衣い潰つぶさされれてて地ぢ獄ごく落らくのの前まへでで。秋あき。ああららううととそそももああるるのの。ソソレレ

ハコ

ハ

又ま湯さんよくお出何らく室あり〜程言の程言のりぞ

らう。サウ〜こゝろサ室人およりおよりサウ〜おより。サアまのお

あがり皆居りやま皆居りやま。トイやちんさんさつつけてひひけ
らあども又ま湯室もあせぞう

なとまきまじりやう。のびんみちのつとま〜又
やうか〜ま〜してサウ〜障子をあけ。

こゆゆ居居るやうにさかま〜。いひひま〜りやう又
まあるれど他の取あ〜い〜とさうりま〜あり。

秋 アイ〜あうち〜お〜。又 ままの今日ハけけ結構お〜お
まあは秋程さるふ。

夫親お〜。そそのまおつま〜て。おお庭あ〜さるうら。明
明明日お〜り拵〜ま〜ら。あお相成ま〜さるうら。明

明明後晚あ〜りハ。い〜い〜ま〜りま〜ら。秋 アイ〜く〜室ら

す〜。池に上〜。さ〜。コウ〜をさる通り連中あ〜ら〜ら

〜。又 ハ〜。秋 ぞ。トキ下。ま〜。秋
〜。又 ぞお近〜。を

やま。又 ハ〜。秋 ぞ。トキ下。ま〜。秋
〜。又 ぞお近〜。を

よ〜。春 コウ〜。西〜。ハ〜。ま〜。つ〜。秋
〜。ま〜。春

〜。ま〜。春 コウ〜。西〜。ハ〜。ま〜。つ〜。秋
〜。ま〜。春

〜。ま〜。春 コウ〜。西〜。ハ〜。ま〜。つ〜。秋
〜。ま〜。春

〜。ま〜。春 コウ〜。西〜。ハ〜。ま〜。つ〜。秋
〜。ま〜。春

〜。ま〜。春 コウ〜。西〜。ハ〜。ま〜。つ〜。秋
〜。ま〜。春

「下巻」を「て肉」でとらう「捲」の上で「稽古」か「たのび」。

「まぐら」の「合」で「け」の「ま」を「あ」に「く」せ。秋「ま」が「あ」

「舞臺」達者。ト「あ」く「ま」を「店」待「あ」れ「二」役「の」ト「是」

「お長」の「書」扱「下」是「大和町」ト「ヤ」く「あ」ら「大屋」此「後」

「それ」の「姿」見「が」志「役」で「ま」役「の」役「で」書「墨」紙「後」此「場」で。

「蒲焼」の「書」中「一」紙「よ」む「六」段「が」ら「せ」役「役」大「屋」の

「役」役「六」段「代」ご「あ」ら「も」高「が」志「を」居「る」大「屋」が「大」屋「の」役「を」

「あ」て「八」役「者」が「役」者「を」ま「る」の「二」丁「ど」替「者」が「役」者「を」ま「る」

「や」ら「も」り「大」屋「の」役「あ」の「び」を「ま」る「大」屋「さ」る「が」大「屋」さ「る」

「扱」役「あ」ら「是」ハ「よ」く「勤」る「ま」を「ま」る「二」丁「ど」替「者」が「役」者「を」ま「る」

「六」退「役」ま「る」ま「る」「二」丁「ど」替「者」が「役」者「を」ま「る」

「け」ら「ら」一「枚」あ「る」出「扱」ハ「何」ご「う」書「物」の「内」ご「の」中「筋」が「サ」チ

「後」で「服」を「着」て「移」る「も」や「あ」ら「移」る「二」丁「ど」替「者」が「役」者「を」ま「る」

「利」家「の」役「は」ま「る」は「ま」る「と」ウ「ら」ら「け」け「あ」の「り」コ「ウ」く「着」る

「が」贖「を」よ「む」や「う」ご「あ」め「六」本「を」よ「む」ま「る」と「吃」又「六」笑「り」ね「は」

「い」ら「る」堪「あ」ら「移」る「コ」ウ「狂」言「を」さ「る」ま「る」ら「う」あ「ら」る「里」利「家」

の内を西へ六とりのよき子秋「コ」どうもあう後足利家の
 中春雨春「コトあやまらう」さうさ大平まで足利家の
 手廻所春は社春也春ぜんろうれ「コサ」ゆ糸終ぶら糸清む飯
 名春まを濁春て續春せ「よき」ゆ糸終春のち折春とりイ
 と「さういふひい」さやア奴秋と「宮田秋」今秋は
 せい雨秋でさか「あんの負債秋」さうごとあて「ア」あ
 て「あびい」あびい秋もくさう止秋う「目秋」だる秋の秋侍秋の秋口秋ダ
 う秋せ五秋「ト声色秋」足利家のゆ糸終秋は社秋も糸終秋の秋折秋

幸秋ひ秋宮司秋とあてあびい秋返秋まんま秋と秋ふ秋る秋け秋一秋果秋「それ
 ぢや調秋子秋が低秋い「今秋」あびい秋返秋てあてあて秋大秋手秋も声秋と秋他秋ふ
 ち秋れる秋と秋い秋と秋室秋が後秋の秋あ秋て「悪秋」の秋腹秋で秋去秋弱秋ふ秋と秋て
 葉秋が秋つ秋「渡治秋」全秋ぢやア秋あ秋る秋「トあ秋」ち秋ら秋「コト秋」ま秋ら秋ち秋ら秋。
 「あ花秋」道秋の秋出秋で秋の秋。「さう秋」や秋ア秋さ秋う秋と秋あ秋び秋が秋さ秋う秋一秋役秋あ秋る秋人秋。
 誰秋に秋せ秋う秋け秋達秋中秋の秋徳秋が秋多秋う秋。「さ秋」く秋「巻秋」雨秋の秋七秋助秋ふ秋と秋せ秋う秋。「あ秋」ら秋。
 つ秋う秋ら秋う秋。「サ秋」く秋「積秋」古秋に秋か秋ら秋う秋せ秋。「真秋」之秋「ゆ秋」み秋せ秋と秋ら秋ん秋と
 が秋ら秋け秋て秋あ秋る秋。「ま秋」ま秋つ秋つ秋と秋期秋も秋あ秋ら秋う秋。「ま秋」づ秋入秋ら秋せ秋られ秋ま

おめくさるるそんぬ根性こんじやうのわあめとあつてあつてがらん果みるん。
 是これがたきとてあつて何なにがふんて盗人根性あしひやくこんじやうさげさるる。
 夫これがさるるが奢あやむるるかあつてあつての宝たからたんと色いろと酒さけと
 奢あやむるるの始はじめ終しまひるるを移うつるるイ又また版はんイ横よこまきさるるの
 院いん又またさるる盗人あしひやくをさるるのふおさるるの法ほう人にんをさるる後のち。
 コレこれイ親父おやぢが考かんがひの足あし解とるる人ひと習ならふもの盗根性あしひやくこんじやうせんさげ
 みやア一生安樂いっせいやんらくごとく欠かて移うつ一文いちもんもつけても差さの香かが移うつが
 ッ。其その上うへ何なにぞあつて友達ともだちの方かた福ふくの宝たから物をさるるに盗あしひやくめと。

ちをさるるあしひやくの人多おほく人面ひとおもて歎なげか念ねん念ねん不離ふり心しん。秋あきコトく真まことに盗あしひやくむ
 のちやア移うつ一ひと粒つぶ言ことばでも虚うそでも。他ほかの物ものも移うつつけてあつて移うつて去い決けつが
 わるるんで移うつ。秋あきコトく移うつコトくよりあつてさるるがさるる移うつ入いれ
は内徳云のよけはつてあつてあつてあつて。七ハア。あるやどさるるハア。あつて
七助あつてく。あつてくして。ハア。あるやどさるるハア。あつて
七ハア。あつてく其その宝たから物を虚うそで移うつ言ことば備そなへさるる子こ。秋あきハテ盗あしひやくむのぞ。
七イ。虚うそも盗あしひやくむのぞ。移うつ七助しちすけが虚うそに宝たから揚あつて盗あしひやくむのぞとらわれ
七ハア。先まづ復かへ對たいして移うつ移うつるる。秋あきコトく移うつるる本ほんをさるるのぞ。
七ハア。それさるるもさるるのぞ。あつて其その井いが移うつるる子こ。秋あきコトく移うつるる。

終へんかゝるべしとあり。申がたのんごうが。おれさう
 あると。私首とボニ。丈陽ご役やう。そりやアゲ云々として
 あれさうご首が落しやア命が移さう丈陽ご役やうか若
 よ。申イ云々でも知居る。沼山にく首を二泥垂でも
 さういふ年。使付わらう付てさうせん。七助も荒れ屋が
 びびりや早さう對人おらさう。だれさう。しりおらさう。遠くが
 主人のさうら。がらう中もかん。おまご。益人のま。何て首
 つかさう。や。おい。申。とも。あ。ら。後。人。申。コ。サ。何。の。お。お。申。コ。サ。ニ。ヤ

のう。申が其猫極声も早聴く後。申イ首はさうい
 日イ首。安らう。べ。さ。二。あ。二。分。の。給。金。で。命。ま。で。六。賣。は。後。人。
 能。加。減。お。あ。ら。う。ら。う。さ。給。金。の。つ。つ。て。宿。ひ。ぐ。べ。い。も。若。い。
 こ。う。若。い。あ。ら。う。さ。申。コ。サ。七。助。さ。も。く。ら。う。後。を。お。れ。や。と。云。て。さ。う
 せるの。い。と。し。て。い。の。い。申。コ。サ。早。さ。う。一。先。お。益。人。で。も。お。付。で。も。申
 が。首。で。志。さ。う。さ。申。コ。サ。ま。あ。う。く。さ。う。が。ら。う。ト。七。助。に。し。り。を。い。は。し。七。三。れ
 早。こ。ら。る。申。コ。サ。お。後。外。と。や。の。い。申。コ。サ。早。さ。う。や。申。コ。サ。ち。ら。う。く
 お。後。者。イ。後。ご。が。日。イ。申。コ。サ。の。通。り。祐。等。さ。う。う。後。中。後。時。記。で

アイタミ。あまこつんか。七助。ハリク。トネで。ドウぞか

のらふ。年のらふまんとま。只痛の。よみ紙さうり。糟の

まねる鳥あまのむら。は時よりぞとまのなる。可憐な

酒をあらけ首の筆雁ハねる。春。終るでもらへん。全侍

その形で。ぎを紙返らどともものる。ぎを扁鹊とこのゆえ。

アアけ首紙あらちの方へ。アイタミ。手をなす六痛のく。

津若き紙紙紙んぞ。傾きが治らう。引くやア八坂乃

はらぶ。まづ案ぶハ後。尾は紙さう。尾人落と押して。

吹く。どうどうどう。そそ。あまがわ。この方とま。治と是。見

膽細之の医案也。傾行方へ尻尾とま。風らやアある

之。サリ。大直さる。彩子耐智。紙揮あ。巻角町内

あまのる。紙の。あまのる。家で首をボ。其上を真直に

つき。治さう。首紙ボ。の序にありの方。紙検押通して。

上。括て。ボ。と吹て首。腹の中。脂もとれて。紙さ

何をい。たまる。居る。何ふ。勅。れ。肉。連。行。く。首

其上の。紙。コ。それ。面。目。の。紙。返。接。つて。首

骨を折くこと。八。お盆や女房にいられる義理。近頃くつろぎお盆

さうても中返り成致とそ加積小折ま〜ともお盆さへ。

どううは程が。アイタ〜。く痛〜。痛〜。く。痛の構を皮

け。そのやア妻細かぬどのさき。ツイタ〜。ア〜。ねはの

連中〜。こ〜。おねがらふ思案が。出〜。二体酒〜。のハ筋

骨を折げる物〜。折おぬ某〜。どうぞ。刃菱と三合あつ〜。

畑とて貴〜。隣の者妻を〜。ゆ〜。湯を腐〜。とらよせ

く〜。秋。〜。何〜。安〜。こ。ト〜。角と助〜。た〜。

のま〜。ア〜。〜。秋。〜。〜。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。七助。〜。

体の刃傷をうりて是れ借金が出たてに居ませぬ。掛
 洋札は仲間がまろちりの足元まで。さませぬ。元をなかりよくそ
 肉洗、りんくろえ。同家のまじ法が悪く有りませぬ。高きも
 存心まじり。あづかう方強りとありませぬ。是をうへに
 丹石をまじぬ。イエ又そんなに想像もせぬ。おぼろしくは
 せませぬ。それよ。掛が集りませぬ。考まじりても
 掛商へ掛でござりませぬ。五歩は歩でも現金を貸す。借で
 ござりませぬ。賣る時ハ利の多きをうでござりませぬ。其金を又

仕込又賣ませぬ。定数でござりませぬ。お金の融通もよろ
 しくござりませぬ。世帯とせよ。お金の融通もよろ
 ませぬ。一月何程とつりませぬ。時多めで是で遺
 却りませぬ。石村の物入がな。物入る。金程は。うござりませぬ。
 甚だお火をうさへ。うもござりませぬ。一交纏て出さぬ。まじり。
 五年や十年で其入のハ上りませぬ。デモ。ありが。ある。お火を
 もござりませぬ。少無人。お静か。お静か。お静か。お静か。
 安心侍りませぬ。お又お静か。お静か。お静か。お静か。お静か。

佛階のりぞで。佛階ハ行いあて。和号の別家の極る物ぞ。
 ありのきく。物ぞ。ハエちあら。数々の奉をいざ。
 一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。百。

なまでも大侍志なまらうお者おんがおん ちのほひのふえおのひのふえ

が後のなま「どんおまのら女でも。おひらひおまびとふおまらう。

「近おちくおちるおち化物おちのなま」コウおちくおちるおちせおちとおちひおちおおちのおちらおちが

ねまの耐まらゆいと喰くせくよう。そとてあふさる。なんらせおち果

づおち。あおちらおちアおちのおち人おち。アおちレおちくおち言おち書おちやおち書おちぐおちもおち。ツおちレおちくおち湯おちの

くおち。アおちイおちそおちまおちるおち。大おちかおち逢おちるおちこのおち 田おち湯おちうおち逢おちく

ゆおちつおちておち湯おち入おちりおちこおちまおちりおちよおち。サおちアおち樂おち屋おち入おち歩おちぬおち。アおちイおち今おち息

どおちへおちおおちりおちわおちうおちんおちめおち。トおち秋おち程おちがおち方おち秋おちアおちをおち 怪おちもおち怪おちれおちぬおち。毎おち日おちとおち法おち

らおちるおちぜおち。あおちつおちがおち法おち當おちりおちやおちアおちんおちのおちふおちくおち。異おち國おち屋おちのおち種おちとおち種おち

屋おちのおち助おち六おち株おち奴おち堂おちておち仕おち舞おち屋おちあおちらおちアおち。あおちのおち面おちアおち只おちあおちらおちいおちとおち。

屋おち屋おち入おちりおちかおちまおちづおちのおち。大おちきおちかおち面おち中おち入おち逢おちまおちづおちこおちらおち九おち尾おち尾おち方

位おちかおちらおちとおち逢おちまおちづおち法おちどおち。江おち戸おち子おちもおちあおちんおちかおち支おち離おち者おちがおちあおちらおちト

いおちらおちらおちうおち。秋おち程おちさんおち。アおちイおち今おち性おちよおち。トおちあおちらおちけおちこおちをおちこおち

さおちらおちにおち女おちのおち。トおちうおちまおちうおちらおちこおちとおちておちあおちらおち福おち。おおちねおちがおち屋おち福おちとおちあおちのおち道おちどおち。

コおちウおちおおち助おちさんおち。聖おち邪おち解おちをおちアおちはおちふおち性おちせおち。おおち女おち。土おち助おちさんおちと

帳おち松おちさんおち。ゆおちのおちまおちあおちらおちとおちておち。あおちまおち入おちのおち性おちどおちあおちらおちけおち。又おちらおちけ

とら

十

とせして。たれ切てき。冬のお株ごき。

秋 紅葉の落葉で
本町四丁目紅葉志摩ナ

徳とせしれちやちまの。 秋 ありくとひて。 秋 又後に

トいふ七助の切て。 七助 中にく。 秋 且形なる。 七助 七助のち。 七 一にサ

急ふ。 七 知付くるがわろう。 七 ちちこり。 七 ありはるにお後の仕

べいとあつて。 七 息い切りしてあつりや。 七 中にく。 七 樂屋へあや。

七 小不家でも能る。 七 室が明白でいご。 七 後不忠んで出る

時の推尊ん。 七 分志。 七 推尊であ。 七 于新でや。 七 葉

七 小焼豆腐ごうけが。 七 何でも。 七 移進ごうけ。 七 何とさあ。

七 何さ。 七 モ。 七 徳の戒名。 七 何と。 七 何と。

き。 七 芥と教。 七 芥と焼豆腐も。 七 他人を。

そこで。 七 モ。 七 井々。 七 遠。 七 のせり。 七 まんま。 七 首尾よくと

多ちやア。 七 徳の。 七 長。 七 存。 七 入。

七 勤。 七 女の。 七 首尾よくと。 七 田舎者。 七 と笑れ

七 べい。 七 名。 七 不。 七 砂。 七 あり。 七 の。 七 教。 七 器。 七 胃。 七 と。 七 首尾よく

七 と。 七 尻。 七 へ。 七 け。 七 尻。 七 と。 七 尻。 七 と。 七 尻。 七 と。 七 尻。 七 と。

又 刀 三

旦那が御縁ある。ハテ今縁解いてさるるおど。又一人お松可

七助どん。ハテさて今おど。引樂屋へ一寸お入りせ。ハセサ

是度。ハテまあ。ト。おん。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

大身体ぢやナ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

もんぢやろ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。ハテまあ。

世をたれど。ころちをきりてめ。左様あつて。つらつらと申さ
 ころふひりきやと。まじりて。けく。小徳合て。あえん。人をつひ
 あり。へ。付。成。あつて。横の中。に。な。さ。り。を。う。り。と
 居。や。ら。ふ。コ。ウ。皆。出。様。様。し。様。人。ナ。さ。る。者。改。え。ん。ご。う。

モシ。あ。ら。え。ん。さ。ふ。さ。さ。ん。ア。ア。あ。ら。え。ん。も。け。な。ハ。あ。り。

ありき。横。で。活。の。業。の。平。月。の。さ。う。に。あ。ま。ハ。様。様。

や。して。様。の。よ。く。は。ら。も。ろ。く。切。先。定。ハ。我。様。あ。と。り。や
 せん。遠。り。付。の。中。へ。さ。も。あ。え。ん。れ。義。か。あ。る。か。れ。ど。

ころち。が。さ。う。限。り。と。ト。り。あ。ら。え。ん。様。を。傍。あ。ら。え。ん。三。浦。様。の。

あり。と。あ。ら。え。ん。さ。う。な。り。と。大。勢。め。り。中。へ。モ。シ。ニ。サ。大。手。に
 ち。安。さ。う。さ。い。ご。う。ぞ。是。小。あ。ら。え。ん。あ。え。ん。わ。く。で。お。か

や。と。か。の。み。ん。や。あ。ら。え。ん。あ。ら。え。ん。の。ハ。様。様。と。や。あ。ら。え。ん。

園。十。と。様。と。様。あ。ら。え。ん。や。あ。ら。え。ん。誰。も。あ。ら。え。ん。可。ら。ち。ハ。様
 あ。ら。え。ん。民。治。と。や。あ。ら。え。ん。か。の。み。ん。や。あ。ら。え。ん。モ。シ。あ。ら。え。ん。ち。ち。が。兄
 だ。ら。で。為。さ。ら。し。め。る。者。と。い。ふ。者。で。あ。ら。え。ん。や。あ。ら。え。ん。以。後。モ。シ。お。ん。ど。お。ん
 ち。ち。ち。ち。か。ん。様。ん。ハ。い。く。と。あ。ら。え。ん。様。も。様。も。様。も。様。も。様。も。様。も。

一礼して産後 松 一サカ松往きお茶。一初舎の新造子と云ふ女は
 となち出る 松 一おねを先く出さとのり。 安 一多往移す。 安 一おらも飛ぶ。 安 一いお
 うひす。 安 一婦しきごととあつて。 安 一産糸をふめ。 安 一サカく来や。 安 一コウ
 こんるふ皆往ちや。 安 一客が売明ごす。 安 一民とと桑坊と往
 つ。 安 一代り入るがのり家。 安 一かさう往へ。 安 一ト出をコウく登
 敷婦とごせ。 安 一細工物の揚枝挿とか菓子で買つて来。 安 一遠
 移。 安 一ト出安。 安 一コウく。 安 一夏の月の娘とねご。 安 一ア。 安 一博多給を
 受てゐる女の。 安 一あつちお居るは東よ。 安 一カ。 安 一あね。 安 一あつち結せ。 安 一

めつ。 安 一やうごせ。 安 一あはあうささきか代物ごす。 安 一あねを
 書算盤盤縫針の。 安 一何ても遊藝は。 安 一おらも志すねと
 いふあつちの女とごせ。 安 一声をきかせて。 安 一そのやう。 安 一目をまらさ
 移奴ハある。 安 一あつちの。 安 一カ。 安 一美し。 安 一顔の通
 一。 安 一十一のと。 安 一おねをたよつて今年二十一ご。 安 一おねを
 徳義の師道張。 安 一おねをたよつて。 安 一おねをたよつて。 安 一おねを
 ナ。 安 一おねをか宿らうとさる。 安 一ナ。 安 一おねをたよつて。 安 一おねを
 一。 安 一おねをたよつて。 安 一おねをたよつて。 安 一おねを

どうら行儀でも出あるさまで。何もあの娘さうりぢや移。
 おれふでも出あるさまで又移しく移すもあやス。
 義しくて利口で万能不達してゐる女さう。外不汰共。
 よ。引んか奴ら移して兩年か者ぞ。遠ね。あつちへ。
 が授いせ。それぢやア英女、移すぞ。あの女は能く移す。
 一が女との小物、移すの入りんぞ。男は子でんや。手扱の
 師匠さうりけよ。限あつちへ。末、綿物で、年季。
 解らぬさ。出さる。サア女の子でんさう。金持は移す。

首の天造うらまの血名まで金が、あつちへ移す。
 入らうりや。出さる。室で、支度に入つて。又、移す。
 おげ向の果、他人、不唯、移す。室で、又、支度入つて。
 づつと、移す。移す。金の入る。移す。生れさう。
 金の、移す。の、移す。あつちへ。移す。の、移す。
 あつちへ。移す。移す。の、移す。の、移す。の、移す。
 人ぢや移す。親の、移す。の、移す。の、移す。の、移す。
 下、移す。の、移す。の、移す。の、移す。の、移す。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

あつて得たしをきりやえ。△長いそとふふ好と
いふ人勝るはあつて。王三落さん。

及切形

三十一

もあり。あつてギツリあるもあり。存者方を装束をば。床の
際にもあり。本城の役。さうゆの役。上。後。舞臺。よりひも
引て。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
おて。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
あつて。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
役。割の。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
ト。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
あつて。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。

ろくろをばけ。アイ。かんでら。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
髪を絡ふ人。アイ。かんでら。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
せ。ろくろが。おつて。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
細る人。アイ。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
めて。十二。おつて。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。

支度。六。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
甘。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。
さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。さうゆの。

三十七

とくさうとく無法に酒をく。々薬瓶で一玉持て来よう。

コウく。逆ののりたニ云々。それいふ所で結る。役をた

酒の悪し。控出背くうのた。さう車輪玉よりく。こく

七助とんねとわて果あ。さあ中丹房にわらわが儀が働

居るうの。おねがふてさあ一班子控て来てく。各人。こい。

こくといとねう子。さあたうさる。こく又始る。くわさ首

打折移る。け中へさうさうわて他と魂消させて。不

あや蟒蛇。控へは僧の再従。ト。いひあがる。サ。急ぐう。

見物がたわくひで。横をへる。声と運とねんで。あはさる。は

いごさうら。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあ

はねさる。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあ

おけさる。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあ

さる。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあ

ある。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあ

ア。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあさあ。さあ

面ふまわり 待ねよ。あやしの顔は持たざる。さざり目ごころ
あつとて 目ごころと釣らねちやる。ね。ト目つて 不冬冬はく

とうさるく。面を痛交ふ食付ねこやう。コウけり込せ。
あやしの新安殿。あやしの新安殿。あやしの新安殿。あやしの新安殿。

遠程。ハチ義。新新一人のあやしのひけあの
あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。

あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。
あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。

あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。
あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。

あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。
あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。

あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。
あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。

あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。
あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。

あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。
あやねある。あやねある。あやねある。あやねある。

本紙のふ。一子ヨシく。カヲ揚幕人。早者ハ早く見お。ヨシく。
何うく。送り六推ど。一私がお送り。マモセウ。月毎をウ。私を。

同全書。私もお休い。マモセウ。トおびま。秋とん。一私を。あつと。習。

かあるら。一重り。けい。から早くお送。よ。一氣知く。ヨシく。

どうぞく。トおびま。一私をお。役者とする。ウ。

本八お。小儀。う。一以上お。役。皆役者。に。あ。る。ウ。志。

くが。秘。トおびま。一私をお。役。者。とする。ウ。

ら。わ。私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

口。上。あ。い。う。ら。う。が。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

る。を。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

ご。ご。う。中。と。お。め。い。さ。る。ゆ。も。ど。も。お。持。ひ。ら。ま。う。て。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

コレ。く。其。上。と。ら。や。秘。入。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

が。咽。お。つ。け。て。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

祝。蓋。紙。と。ん。婦。人。揃。ひ。で。う。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

お。酒。が。な。ん。び。小。嘗。く。揃。ひ。で。う。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

う。年。の。さ。う。で。く。こ。と。入。ら。れ。秘。入。ら。蒲。秘。子。と。鬼。が。ら。一私。お。と。は。上。さ。ら。う。ら。

途く會て早急う蒸姑と獅子舞計珠の中へ。一子
 きつゝ。テモ嬉びのて候はるも。三ツ物のまぢにあらはさる
 しま。まがはるてえ食ももあひあ。ころりお上人さ
 ども秘。トリのあそび助者「サカく口上で」。あまのうせうで。舞臺の方
 既さ。え。者「ヲく。是。客に誰うものが居くとあらて東
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 へんちやうち。アト。獅子の肉をうかう。トいひあまがめ者の
 べき。まのせあ。者「イヤ。口上で」。あまのうせうで。舞臺の方

それ終つた方へ。いふに。はい。おんいふ。口上の
 出ま。あやう。あやのせ。あまのうせうで。舞臺の方
 口上。いひあそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。
 一。あそび人秘入。盲人の隣座の之強御殿がある。

又の

又の

さるト。又あ方らる幕を揚るう。ソリヤ引込よう。音の

又 一やうち 又よきようの幕知く。店 店 ぶる者さん。さうじき聞ごよ。又

ぎの幕明百も幕知。者 サカ 徳。アませる返く。千ヨシク。ト

△ 役者ぶるふ幕のて 店 ソリヤ。又き場さん。けきツカケ下。又

どとん湯入るわく。さうあるやのちあてぶく。さうひを。紙をひた

千ヨシク。幕張ちのて 見物あまのて人声 イヨに上ウリ

「幕あく。是より幕幕素人狂言のありさゆ。絶々とうり

多うぶり紙着して。幕年才二編ふま。さうさく。ハ


万福の狂言ふはのて。江戸のあ素れるる。法目を物種方

いふにおよと。別々。樂屋の化粧。車に棲ておま

しゆ及。垣根の外の役役と。 柴 柴

本町二丁目 式亭三馬

素人狂言紋切形初編卷之下終

戲作者 式亭三馬 戲作 

浮世画師 歌川國直 狂画 

筆者 藍庭晉米 

當年新雕

式亭三馬戲作

古今百馬鹿

初編 二冊

中形絵入あり、まのそ本
二編より追く出版

子にあらぬ親の馬鹿女小迷小男は馬鹿著小
も機ゆとわらぬ馬鹿人ふらうくうき
の馬鹿をさすふさね高橋馬鹿馬鹿と
いふをさすわらぬ馬鹿はくあくる馬鹿物語

本
絵入

義濃舊衣八丈綺談 全五卷

馬琴作
北嵩画

中葉八丈綺と稱るもの八丈より織出まきあつて入る八丈結とほり
この物語も又あつたりお勢才三やう因果のめぐりや述るといふもか
ぎのへんしやうお勢才三やう
義濃本昔八丈と大不異なり目このものがう近頃西三程絵草紙
出られども後てこまに管に胎成奪ひ骨紙摺え教新を多かり

文化十一年

甲戌春正月吉日

江戸書賈

通油町

萬屋重三郎

室町二丁目

越前屋吉兵衛

筋違御門通平永町角

山崎平八版

おとまりの

おののどや

ふてて

おののど

